

複数のチャットサービスから

関心のある通知のみを受け取るツール

開発駆動コース 仲山ゼミ 古川修平

モチベーション

テレワークの普及と共に、チャットを利用する機会も増えているが

- 対面に比べてリモートの方がコミュニケーションをしづらい
- 対応が必要なことをためてしまうと心理的負担が増えやすい

こういった点を軽減・解決するための方法を検討した

メッセージに気付かない

メンションするか、通知を送るかは送信者に委ねられている
必要なメッセージでメンションされずに気付かないこともある

↓

関心のあるメッセージの条件を指定して通知を受け取ることで、
メンションされていなくても気付くことができる

実装

JavaScript で、チャットサービスの API を使用

1. WebSocket など自分が受け取ったメッセージを収集
2. 通知ルール設定から転送先とタイミングを決定
3. 指定したタイミングで通知を送信

通知のフィルタリング

- メッセージ内にメンションが含まれている場合に通知
- メッセージ内に特定のキーワードを含む場合に通知
- 通知をすぐに送るのではなく、一定時間まとめる

上記のような機能を組み合わせて使うことで、
全員宛のメンションの場合は通知を受け取らないようにしたり、
集中したいときに通知を1時間おきに受け取る、などができる

ターゲット

- 作業スペースにいないときなど、普段と違う環境で確認するとき
- 起きたときや休み明けなど、通知が溜まりがちなとき
- 作業に集中していて、全ての通知を確認していないとき
- やりとりが少なく、定期的な確認を忘れがちな相手

チャットサービスが多すぎる

チャットサービスは相手と同じものを使用しないといけなくて、
自分の希望するサービスに統一することができない

↓

自分の持つアカウントに対して送られたメッセージの通知を、
自分の選択したサービスで受け取ることで、
相手と自分の双方が好きなサービスを使用することができる

通知が多すぎる

グループに対してメンションできるサービスでは、
不必要なメンバーも対象となってしまうことがあり、
無用な通知を受け取ることがあり、必要な通知が埋もれてしまう

↓

緊急度の低い通知は事前設定したタイミングで受け取ることで、
より優先度の高い通知が埋もれてしまうのを防ぐ



通知の転送

Slack や TypeTalk で自分宛に受け取ったメッセージを、
Discord など、自分の設定したサービスに転送することで、

- 使いやすいサービスで通知を受け取ることができる
- 新しいサービスでも、API で投稿できれば、相手が使っていないでも使い始めることができる

また、メッセージをそのまま転送するのではなく、内容を隠すことで、
うっかり盗み見られることを防ぐこともできる

今後について

- Slack など、他のサービスへの対応
- 設定変更UIの実装